

会 議 録

会議の名称	第7回 飯塚市文化施設活用検討委員会
開催日時	令和4年12月26日(月) 15:00~17:15
開催場所	飯塚市役所 本庁 1階 多目的ホール
出席委員	竹川委員長、河副委員長、徳永委員、瓜生委員、田中委員、長曾我部委員、 寺田委員、田上委員、眞鍋委員、奥田委員
欠席委員	志村委員、榎本委員、福丸委員、大石委員、早川委員、
事務局	<p>【文化課】</p> <p>坂口課長、久原文化施設整備担当参与、吉田文化施設整備推進係長、西田</p> <p>【商工観光課】</p> <p>柴田課長補佐</p>
会議概要	<p>1 開会</p> <p>2 委員長あいさつ</p> <p>3 議題</p> <p>3-1 劇場再開までに取り組むこと(ソフト事業を中心に)(前回の続き)</p> <p>3-2 嘉徳劇場の運営方法と市民参画について</p> <p>3-3 最終答申案の構成と答申案について</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>
会議資料	<p>資料1 嘉徳劇場再開までに取り組むこと(ソフト事業を中心に)</p> <p>資料2 飯塚市内の官民連携による公共サービス提供の手法事例</p> <p>資料3 答申の構成(案)</p> <p>資料4 最終答申(案)</p>
公開・非公開 の別	<p>① 公開 2 一部公開 3 非公開</p> <p>(傍聴者1人)</p>

会 議 録

その他（非公開理由等）	
会議内容	<p>1 開会</p> <p>2 委員長あいさつ</p> <p>3 議題</p> <p>3-1 劇場再開までに取り組むこと（ソフト事業を中心に）（前回の続き）</p> <p>●事務局より資料1について説明</p> <p>この資料は前回の委員会における委員の意見「ソフト事業のあり方は段階によって違う。事務局は時系列でソフト事業の戦略を考えてこの資料を整理してもらえれば。」という指摘を踏まえ、これまでの委員会における各委員の発言をもとに整理したものであり、今回の委員会についても率直な意見や取り組み手法についての意見をいただきたい。</p> <p>【質問・意見等】</p> <p>① 劇場の再開に向けて働きかけていく対象者などについて</p> <p>委員：まずは嘉穂劇場の現状を伝えるための情報発信が大事で、その情報を発信するグループが組織できたらと思う。若年層にはスマートフォンに対応したウェブデザインやSNSによる周知、商店街に来訪するような年齢層にはフリーペーパーのような形が望ましいのではないかと。そのようなグループがその後のサポートクラブの窓口になったり、ワークショップやイベントの企画などを行うグループへ育てていくことが期待できるのではないかと。特に大学生の力を活用すべきだと感じる。</p> <p>副委員長：働きかける対象者としては、劇場ファンや演者はもとより、子どもたちも含めていかなければならない。また、ファンではない一般市民もファンにさせていくことが大事だと思う。それをやろうとするなら、嘉穂劇場の再開の前から取り組まなければいけないと思う。そのためには公募型のアイデア募集など、今すぐにでもはじめた方がよいのではないかと感じる。</p>

会 議 録

② 休館中の嘉穂劇場においてできることについて

委員：嘉穂劇場の内部は再開するまで利用できないが、その周辺環境の利活用も取り入れた方がよいと感じる。実際に運営側が出すSNSの情報と、周辺に住む方や来訪者が自主的に行うSNSでの情報発信では効果が違うと思うので、まずは嘉穂劇場が休館中であっても、実際に足を運んで参加できるイベントを行うなどの利活用方法もあってもいいのではないか。

委員：太宰府市では史跡でキッチンカーを並べたりして、土地の有効利活用をやっているケースがある。嘉穂劇場でも元々駐車場であった土地を利用して、観光協会や民間の協力を得てそのような取り組みを行い、嘉穂劇場への関心をつないでいくことも大事なのではないか。

③ 嘉穂劇場の広報活動について

委員：嘉穂劇場が休館中である現在を機に、飯塚の文化資源とか地域資源を全国に広めるような活動を行ってはどうか。それには旅情報誌など、無料でウェブと紙面でPRしてくれるような媒体を利用できたらと思う。ただし、全国に紹介された場合、休館中である如何に関わらず、実際に訪れる人が増えてしまうので、耐震関連が終わった後ならできるような気がする。無料メディアを上手く活用することだと思う。

委員長：市が作るホームページに若年層の目線等を入れたりした方が良い。嘉穂劇場の実物が見えない以上、ウェブサイトなどでしっかり情報発信していくなどの戦略を構築すべきではないか。

副委員長：海外の観光客にも働きかけようとする、ウェブサイトのデザイン性はとても重要で、文章としては情報が出ているが、実際に行ってみたくなるような魅力があるサイトにするにはもう少し工夫が必要だと思う。例えば学生に公募をかけて動画作成してみたり、小学生にポスターを公募してみたりなどして若い感性を取り入れるか、もしくは費用をかけてしっかりしたデザイン性の高いサイトを作るなど、何かひとつ良いものがあればいいかなと思う。

委員：美術館や博物館では、市役所のホームページに情報が掲載されているのと、デザイン性のある独立したホームページがあるので

会 議 録

は、集客が全然違うらしい。やはり嘉穂劇場にも独立した魅力があるホームページが必要ではないかと思う。

3-2 嘉穂劇場の運営方法と市民参画について

●事務局より資料2について説明

飯塚市では公共施設の管理においては、官民連携などにより、民間が持つノウハウを活用し、サービスの質の向上を図るとともに、管理運営にかかるコストを削減しようという取り組みが主流になっている。一言に官民連携と言っても様々な手法があることをご理解いただきたい。

【質問・意見等】

④ 市民参画の取り組みについて

委員：市民が参画する手法としては、一つ目は観客や聴衆として参加する。二つ目は運営を手伝う。三つ目は運営に参加して、自ら主催者になる。おおよそこの三つに分かれるが、この委員会で議論されているサポーターやボランティア組織は二つ目に入ると思う。施設の運営者に勘違いされやすいのは、サポーターやボランティアを組織すれば人件費が削減できるわけではないということ。逆に経費が増大することがあるので、組織をきちんと整理しなければお互いに不満が残る結果となる。また、三つ目の運営に参加して、自ら主催者になることは重要だが、同時にとても難しいことでもある。NPOなどの市民組織を作ることは、主催事業の内容を決めるなどの施設の意思決定にある程度関わることとなるが、引き換えに組織としての法的・経済的責任を負うことになる。また、施設側が高度な創造事業を行う場合、市民組織と齟齬を生じやすいということがある。つまり、誰のための市民参画かは考えておく必要があり、行政がつくる市民組織はだいたいダメになる。主体的に動く市民組織ができていかないといけないので、それが可能かどうか、どういう手順が必要か、その人達と一緒に地域をつくる意識を共有できるかどうかを検討する必要がある。極論すれば市の運営形態はどれでもいいが、市民参画を受け止めることができる運営者をたてるのが大切であると思う。

会 議 録

⑤ 市民の関わり方について

委員：山鹿市の八千代座では「栈敷会」という活動団体を立ち上げ、年会費は2千円をいただいている。会員には新聞を年2回発行し、公演を年4回程度開催し、その際に使用できる2千円以上の割引券を発行している。そのため会員はよくチケットを購入してくれた。また、山鹿市内の小学生が八千代座で卒業公演を開催したり、子どもたち向けの講演会を行う取り組みを継続して行っており、やはり子どもたちが使うのが一番市民のためになると思う。その経験が劇場への愛着となると思うので、ぜひ嘉穂劇場でも行ってもらいたいと思う。

委員：まずは嘉穂劇場の舞台を見ることや体験することが大事だと思う。そこから子どもたちが舞台に立つことに意味がある。舞台を見ることにより覚えた感動が、自分が舞台に立って演じることにつながり、それを見て喜んでくれる人がいるという体験が、自尊感情などにもつながっていくことを感じる。またサポータークラブについても、結成するのであれば考えだす時期ではないかと思う。

委員：身近な大学生に聞いてみたところ、今まで嘉穂劇場と関わりがあった学生はほとんどいなかった。それが幼少期に演劇などをやることにより関わりを持つ。そして大学生になって、嘉穂劇場の運営のサポート行うようなサイクルができれば、嘉穂劇場のことを若い世代に学んでもらうことができ、その魅力を広めていけるのではないか。

3-3 最終答申案の構成と答申案について

●事務局より資料3、4について説明

【質問・意見等】

副委員長：連携による活用方針についてだが、点ではなく面での連携の部分があまり具体的ではないので分かりにくい。もう少し事例などを踏まえて記述すると分かりやすいのではないか。特にソフト事業においては、地元商店街とのつながりをどうするかなど、具体的にまだ詰められていないので、そのあたりも取り入れると良いの

会 議 録

	<p>ではないか。</p> <p>委 員：今後サポータークラブを立ち上げるにしても、商店街の人たちもそのメンバーになって欲しいとお願いしていかないといけないと個人的に思っている。そこから行政と一緒に考えて行けたらと思うが、やはりこのサポータークラブをどのようにつくっていくかが大事で、事務局として具体的な考えがあれば教えて欲しい。</p> <p>事 務 局：この答申は委員の意見の集約としてまとめることとしているので、事務局の考えを取り込むべきではないと考えている。今後は本委員会の意見を踏まえて具体化していくというスタンスで、嘉穂劇場再開に向けて動き出すべきだと思っている。答申に具体的などころが見えないのであれば、本委員会でもう少しご提案をいただきたいと思っている。</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>
--	--